

大中型バス下廻り点検要領

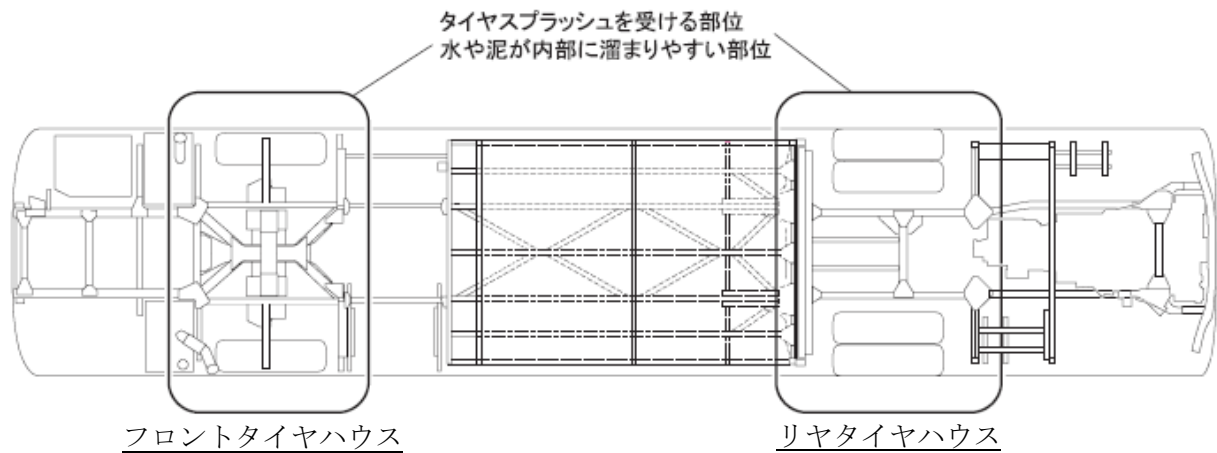
バスの下廻りは、使用環境（融雪塩等）の影響で、錆によるダメージを日々うけており、点検不十分な場合には路上故障に繋がる可能性があります。

今般、お客様の安全運行のために、12か月毎の点検項目として車枠及び車体、緩衝装置の箇所についてメンテナンスノートに追加を致しました。

これら箇所の点検要領についてご紹介いたしますので、お客様の保有車両を点検頂きたくご連絡致します。

1. 点検部位

フロント及びリヤのタイヤハウス部

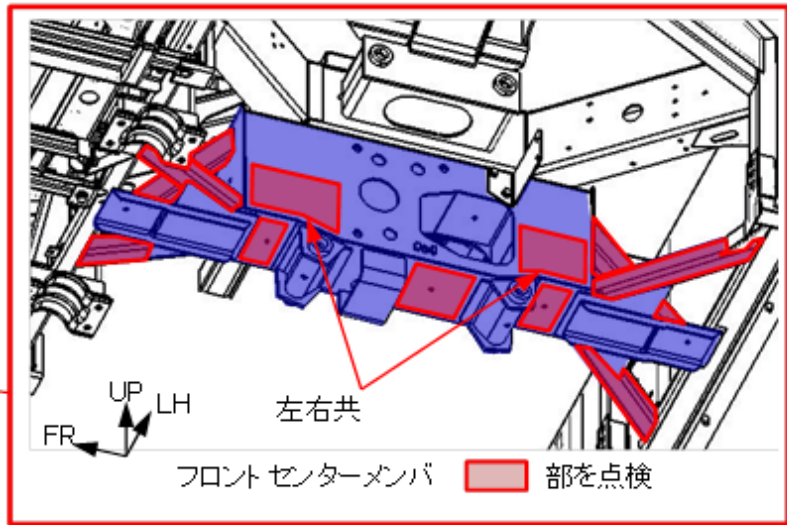
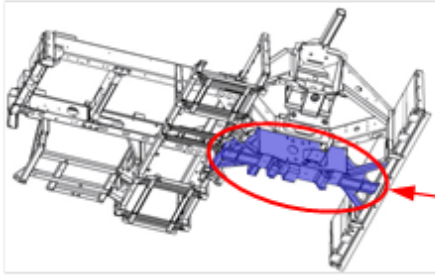


1.1 フロントタイヤハウス部

① フロントセンターメンバー

AS,AM

(フロント独懸仕様)



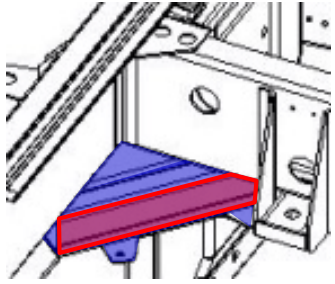
1.2 リヤタイヤハウス部

①サスペンションサポート

AS (ワイド仕様)

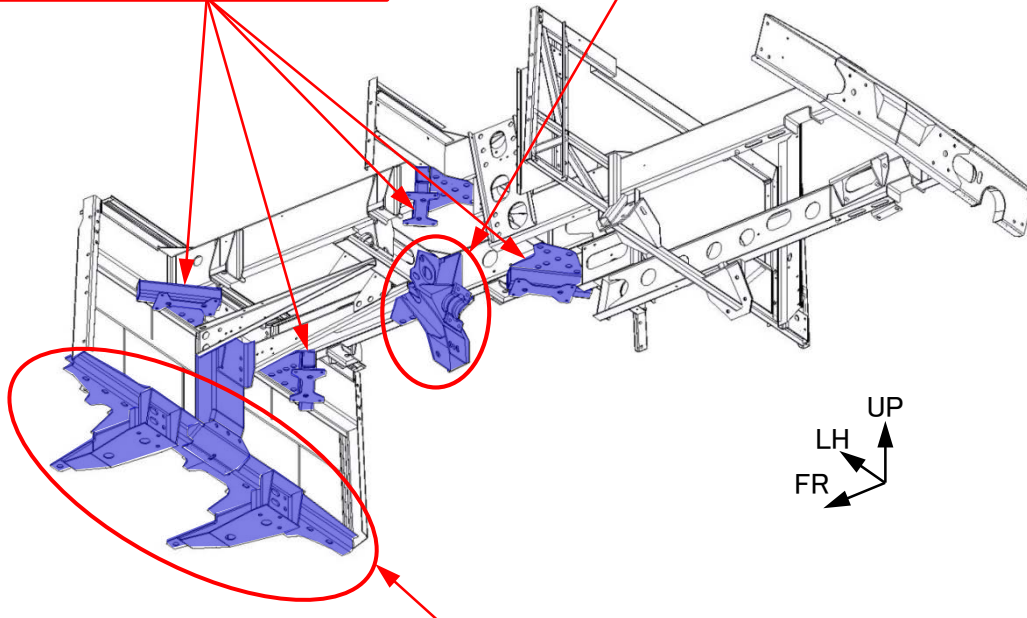
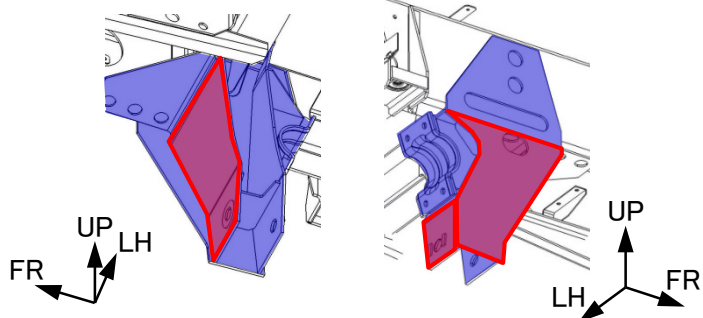
エアスプリングブラケット
(裏側も同様、全4箇所)

部を点検



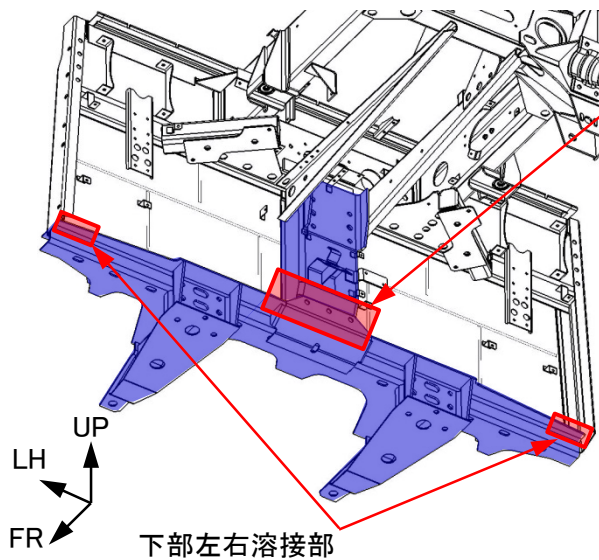
ラテラルロッドブラケット

部を点検

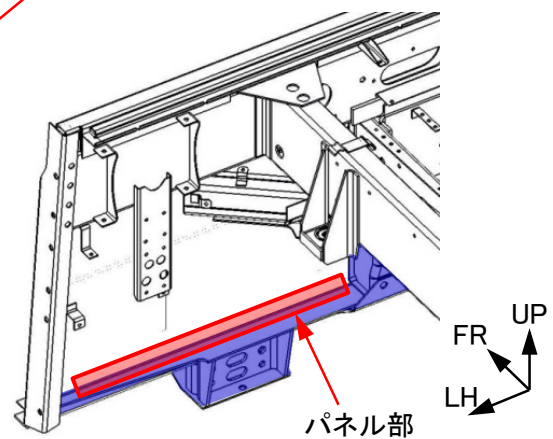


サスペンションサポート

部を点検



中央下部取付部周辺

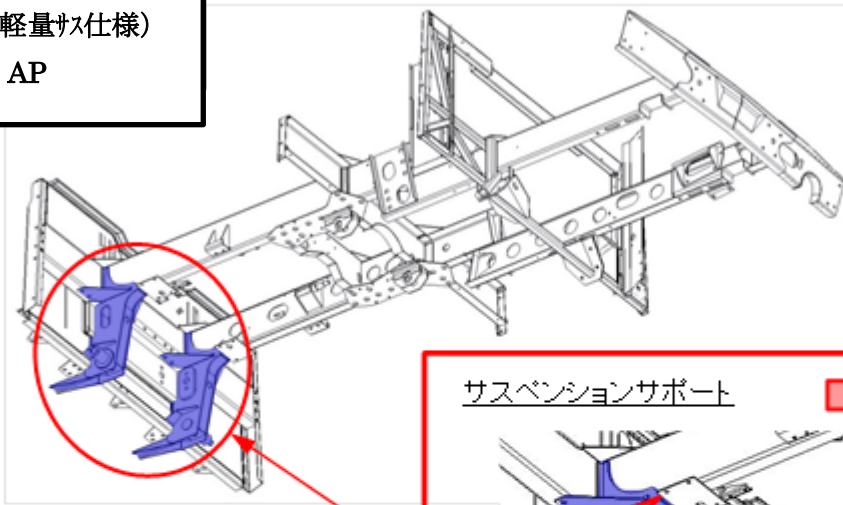
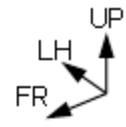


1.2 リヤタイヤハウス部

②サスペンションサポート

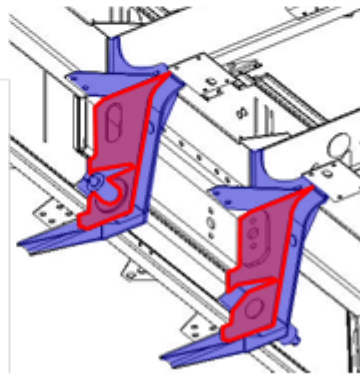
AS (軽量サ仕様)

AM、AP



サスペンションサポート

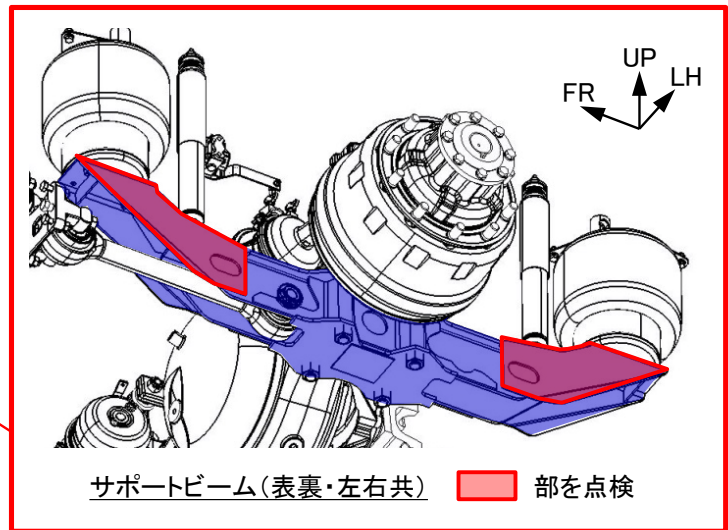
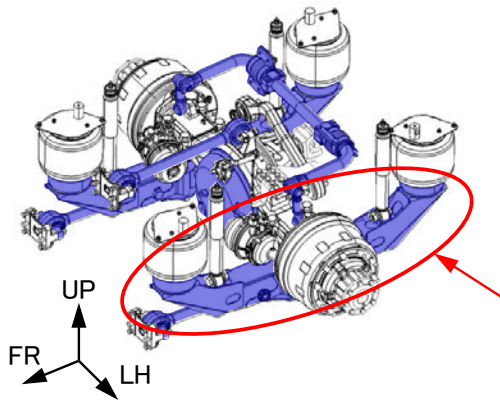
部を点検



1.2 リヤタイヤハウス部

③サポートビーム

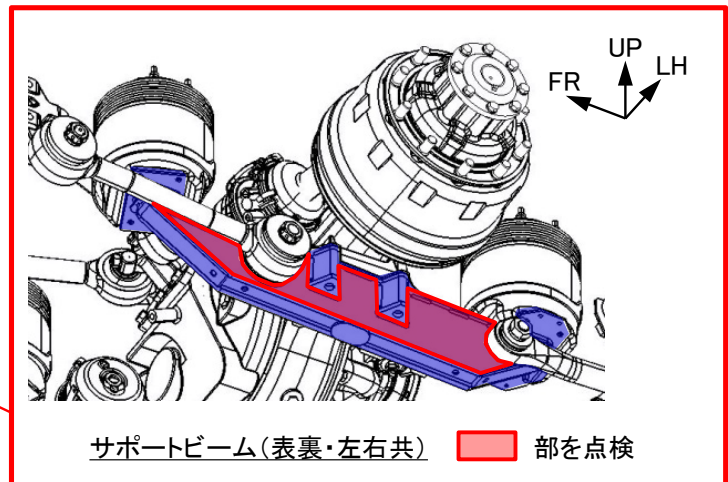
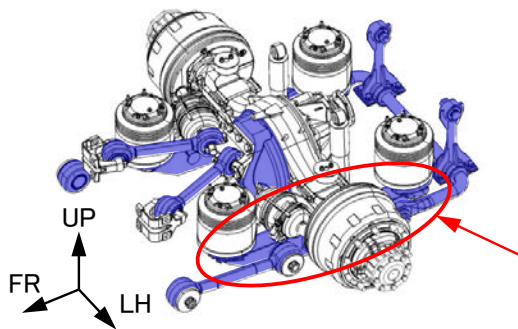
AS (ワイドサ仕様)



AS(軽量サ仕様)

AP

AM



2. 点検要領


目視及びハンマーリングにより、1 項に示す部位の点検をお願いします。

2.1 ハンマーリング要領

- ・使用ハンマー例（約 200g）

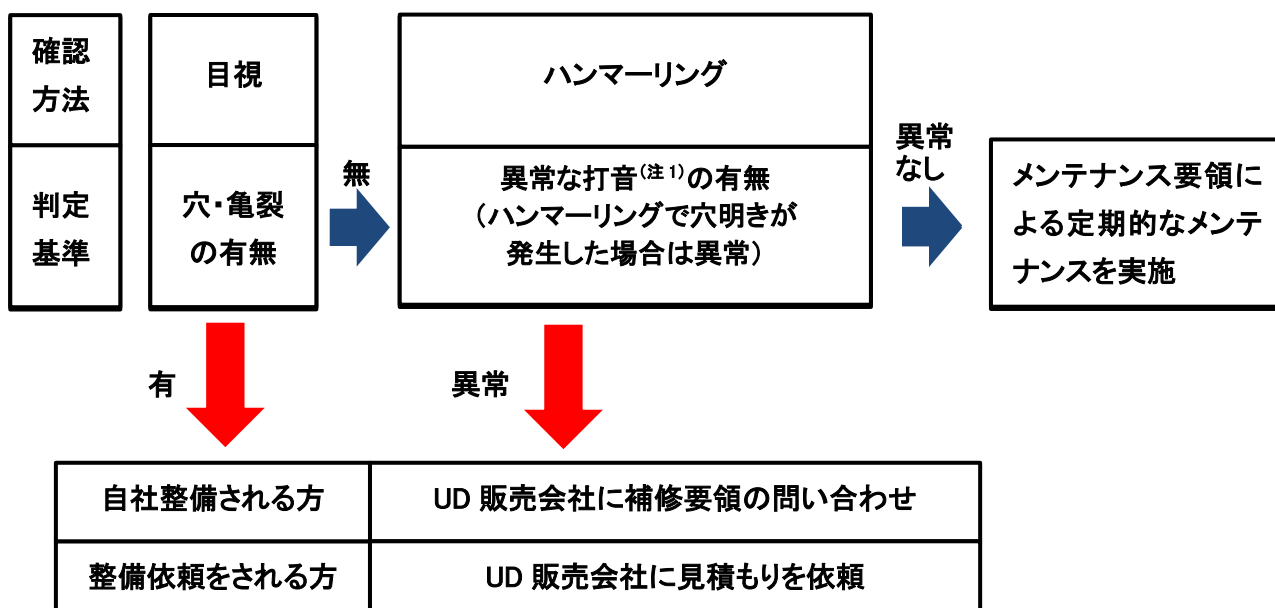


- ・ハンマーリング

点検部位詳細に示す赤塗り部（）を約 3cm 間隔でまんべんなく点検ください。

2.2 判定要領

腐食による異常有無の点検を下記のフローに沿って実施をお願いします。



(注 1)異常な打音

- ・透明な金属音ではなく、こもった鈍い音
- 対象のお客様に配布した CD で音をご確認下さい。